

印 象 記

春 田 泰 次*

この林業統計研究会とはまったく関係のない私が、ニュージーランドセミナーに参加し、後悔を少ししているところに、幹事の方から今回のセミナーの感想を書けとのことでありましたが、セミナーでの専門的な内容については、出席した各先生がたにまかせて、私は見学会で森林を見て感じたことを少し書くことにします。

会議の合間に、ロトルア林業試験場の人と話す機会があり、この国の土壤侵食に付いてたずねると、その人の話では、東海岸、とくにギスポーン付近における、1年生-8年生の造林地帯で約3%が土壤侵食を受けていると言っていた。そして降雨量に付いて尋ねると、ロトルア付近では、年間およそ1500mm、そして次の訪問地であるクライストチャーチ付近では、年間およそ600mm降ると言っていた。クライストチャーチ付近は、ロトルア付近よりもおよそ半分の降雨量である。

最初の見学地はダグラスファーの伐採地とラジアータ松の造林地であり、この地域の土壤は砂壤土、下層にはスコリアが多く含まれている。A層は厚くなく、色は薄い。見た感じでは、平坦な造林地、緩傾斜の造林地では、植栽後すぐにシダ類が生えて、地表を被ってしまうので、土壤の劣化や土壤の流亡は起きていないようであるが、急斜面の所では土壤の流亡があるように思われる。土壤条件はあまりよくないため、土壤保全に十分留意して、将来の造林計画を行なってほしいと思った。

次の訪問地であるクライストチャーチに行く途中、飛行機から山を見ると、ロトルア付近の山の色は緑色であったが、クライストチャーチ付近の山の色は灰黄褐色であり、山の頂上部に崩壊したところが多く見え、乾燥して荒れている感じがした。そこから流れている川はまるで洪水の後のような眺めであった。空から眺めた川を、バスで通ると灰色に濁った水であり、上部での土砂の流出をうかがわせた。ここでの見学地はアシュレイと言うところであり、この地域は火山灰の土地である。造林地の土壤はパウダー状で、A層はほとんどなく、下層まで大小の円れきを含み、流亡しやすい土壤の様に思われた。若い造林地を見て、かつての日本の大皆伐後の造林地を見ているような感じがして、ここも将来森林の荒廃を来すのではないかと心配する。また山の上部はほとんど裸地化し、風化しやすい岩石が多いように思われた。このような地域での、砂防堰堤や砂防造林の必要性を痛感させられた。

簡単ではありますが私の印象記といたします。末筆ながら、今回の企画をなされた先生方と、

*東京大学愛知演習林

マウイダンスの楽しい思い出に感謝しつつ筆を置きます。